

リュウグウノツカイの幼魚

犬塚敦己・高見宗広

アカマンボウ目リュウグウノツカイ科に属するリュウグウノツカイ *Regalecus russelii* は、インド洋、太平洋、大西洋の水深 200-1000m の「中深層」と呼ばれる深度に生息すると考えられている深海性の魚類です。本種は漂着した個体や定置網に迷い込んだ個体が時折水族館などに搬入されては話題になるため、その名前が広く知られている魚かと思えます。体は帯状で細長く、一般的な魚のような鱗を持っていません。背鰭は頭の前から尾鰭まであり、そのうち前



図 A: 採集されたリュウグウノツカイ *Regalecus russelii* の幼魚。
図 B: A の標本。尾鰭は冷凍保存中に消失してしまった。標本はふじのくに地球環境史ミュージアムに登録（標本番号：SPMN-PI 49401）

方の 6 棘は著しく伸長します。腹鰭条は左右に 1 本ずつのみで長く伸長し、先端が扇状になっています。これがボートのオールに見えることから、英名では Oarfish（オール・フィッシュ）と呼ばれています。体は銀白色で、各鰭は赤色をしています（成魚）。大きなものは全長 5m 以上にもなり、これは硬骨魚類の間では最大級です。冬の駿河湾では沿岸の浅瀬に本種の幼魚が出現することがあります。2021 年 1 月 30 日に西伊豆の漁港内でリュウグウノツカイの幼魚が採集されました。リュウグウノツカイの幼魚は成魚とは異なり、尾鰭が長く伸長することが知られており、今回の個体でも幼魚の特徴である長い尾鰭を確認することができました（図 A）。また、本種の幼魚と成魚に共通した特徴として、生時には全身に青い線状の斑紋が散在します。全身を青く煌めかせ、背鰭を波打たせて優雅に泳ぐ様子は、深海魚マニアや多くのダイバーを虜にしています。ダイビングスポットで知られている大瀬崎では、冬にリュウグウノツカイや深海性生物が出現することがあり、これらを目当てに冷たい海に潜るダイバーも多いようです。皆さんも、冬の漁港に行く機会があれば、一度じっくり海面を観察してみてください。驚くような出会いがあるかもしれませんよ。